

生産者の方々の支え

越谷市立荻島小学校 六年 葛貫 希歩

私は小さい頃から甘いお菓子が苦手です。ケーキやプリン、ドーナツなど市販の物は甘くて食べることができませんでした。けれど果物の甘さは、不思議と大丈夫でよく食べています。中でも、甘さと、みずみずしさのあるぶどうが大好きです。

秋ごろに、スーパーに買い物に行くと、様々な種類、産地のぶどうがたくさん並んでいます。たくさんのおぶどうは、きらきらと光って見えて、「まるで宝石みたいだな。」とワクワクします。毎年、秋にぶどうを食べるのが一つの楽しみになっています。私はいつも、ぶどうを食べる時に、「この白い粉は、何のためのものなのだろう。」と気になっていました。疑問に思い調べてみると「ブルーム」と呼ばれ、ぶどう自身が作り出す物質ということが分かりました。そのことを初めて知った時、人の手だけではなく、果物自身も、病気の予防などをして、鮮度を保っているのだなとびっくりしました。それでも虫に食べられてしまったり、傷んでしまうことがあると思います。けれど虫の被害を防ぐ新しい工夫や、より甘くて美味しい品種の改良など、生産者の方々の努力が一粒一粒に込められているのだと感じました。

今回の学習を通して、私たちの食卓はたくさんのお生産者の方々に支えられていることを忘れてはいけなさと改めて思いました。そして、果物には食品として身体に必要な栄養を摂るといふ役割だけでなく季節も感じることが出来る魅力があると思います。これからも感謝の気持ちを忘れず、おいしく食べたいです。